

報道関係者 各位

みんなの夢が詰まったインクルーシブな子ども広場第1号の 百道中央公園 整備プランができました！

福岡市では、「誰もが思いやりをもちすべての人にやさしいまち、ユニバーサル都市・福岡」の実現を目指し、誰もがお互いを理解し、安心して笑顔で、自分らしく遊ぶことができる「インクルーシブな子ども広場」の整備に向けた取り組みを進めております。

このたび、第一号として、百道中央公園（早良区）整備プランが完成しましたので、お知らせします。

整備プランの検討にあたっては、地域の方々や障がい当事者をはじめ、障がいのあるお子様をお持ちの保護者やNPOの方など、のべ100名以上の方にワークショップにご参加いただきました。様々な利用者が楽しめる場所となるよう、遊具や広場のあり方を検討し、みんなで整備プランをつくりました。

ぜひ、市民の皆様にお知らせいただきますようお願いいたします。

1 ワークショップのポイント

ワークショップの開催にあたり、多様な方々の意見を丁寧に反映していくための工夫を実施。

① 地元住民、障がい関係者など多様な方々の毎回の参加

百道浜自治協議会をはじめとする地元住民や障がいのある当事者や保護者など多様な立場の方々が毎回参加。（のべ110名。うち地元住民27名、障がい関係者66名含む。）

② ワークショップは回数を増やして丁寧に

当初2回を予定していたワークショップの意見交換の中で、計画づくりの細部にまでこだわりたい、参加したいとの強い思いを受け、希望者からなる市民ワーキングも行うことで、計6回にものぼる熱心な話し合いを実施。

③ 視覚障がい者のための合理的配慮の実施

全盲の視覚障がいの方向けに、事前に当日資料のテキスト版を送付するとともに、当日は専任の補助スタッフを配置、整備プランの触知図（触って園路のルートや地面の高低差がわかる図面）の用意を実施。

④ 障がいのある子どもの見守りを行うスタッフの配置

障がいのある子どもの保護者が参加しやすいよう、ワークショップ会場に子どもの見守りを行うスペースとスタッフを配置。

⑤ のべ40名の学生の参画

多様な参加者が自由に話しやすいよう、市民ワーキングは九州大学芸術工学研究院平井研究室が中心に運営を行い、毎回学生スタッフが参加（のべ40名）し、各グループのファシリテーションや子どもの見守り、障がい者の補助を実施。

①話し合いの様子



③触知図



④子どもの見守り



2 整備プランのポイントについて

〔別紙1 整備イメージパース、別紙2 整備イメージ図（案） 参照〕

- ① 車いすでアプローチできる遊具や見守りのための休憩スペースの改修
- ② 車いすでもアプローチできるように改修した築山
- ③ 転んでも安全なゴムチップ舗装を整備
- ④ 自然にも親しみながら五感を刺激する遊び場
 - ・整備面積 約1.5ha（公園全体面積 約4.0ha）
 - ・主な施設
 - 遊具24基（複合遊具、滑り台、砂場、ブランコなど）
 - ゴムチップ舗装 約850㎡、園路のバリアフリー化 約1,800㎡
 - 休憩施設（車いすのまま近づけるテーブル、ベンチなど）
 - トイレ1か所改修、バリアフリースイートイレ新設1か所などを予定

3 取り組み経緯と今後の予定

R5.3～6月	ワークショップ開催
R5.7月（本日）	整備プラン発表
R5.秋	工事着手
R6.春	遊具広場完成（オープニングイベント）
R6.秋	全体完成

（参考）

○ インクルーシブな子ども広場整備検討の経緯

R3.11	第1弾 舞鶴公園での体験の場の創出（10日間）
R4.3	有識者による整備指針検討委員会設置
R4.7～	第2弾 舞鶴公園での体験の場の創出（継続実施中）
R5.1	インクルーシブな子ども広場整備指針策定

○ 早良区以外の整備箇所

アイランドシティ中央公園（東区）、東平尾公園（博多区）
かもめ広場（中央区）、桧原運動公園（南区）、西南杜の湖畔公園（城南区）、
今津運動公園（西区）

別紙1 百道中央公園 整備イメージパース

① 車いすでアプローチできる遊具や見守りのための休憩スペースの改修



② 車いすでもアプローチできるように改修した築山



③ 安全なゴムチップ舗装を整備



④ 自然にも親しみながら五感を刺激する遊び場



別紙2 百道中央公園 整備イメージ図(案)

